

## 令和4年度 山内図書館利用者フォーラム 会議録

1. 日 時 令和4年9月29日(木) 14:00~15:30
2. 場 所 山内図書館やまちゃんおはなしの部屋
3. 出席者  
利用者フォーラムメンバー  
貞廣典子代表(おはなしボランティア虹の部屋代表)、宮澤高広副代表(フリーライター)、松下ユウ子委員(おはなしフェスティバル実行委員長)、徳榊崇子委員(リペア一期の会代表)、二見太二(有隣堂たまプラーザテラス店店長)

### 事務局

- 荻野聡子、石塚宣哲(有隣堂本部)  
小島俊之、村田公宏(三洋装備)  
古川たか子、味元敬子(山内図書館)

\*新型コロナウイルス感染予防のため、通常年2回行っている利用者フォーラムは本年度はこの1回とする。

### 4. 案 件

- (1) 令和3年度の事業報告及び開館45周年事業の紹介
- (2) 大人の倶楽部活動報告
- (3) 大人の倶楽部活動を活発化するための意見交換
- (4) その他、山内図書館への要望等

### 5. 概要

- (1) 令和3年度の事業報告及び開館45周年事業の紹介(古川館長)

#### 【令和3年度の事業報告】

令和3年度から青葉区の読書推進活動の一環として、CDブックの貸出を始めた。高齢者を中心に貸出が伸びている。本年9月に30タイトル増えた。読書バリアフリー法に対応して、令和元年度にりんごの棚を設置。大活字本やピクトグラムなどを使って内容をわかりやすく伝える工夫がされたLLブック、障害を理解するための本を集めているが、引き続き拡充に努めた。令和3年度にあおば支援学校や麻生養護学校の生徒さんが職業体験で来館した際には、熱心にコーナーを見学していた。本年9月にはりんごの棚の一角に認知症の理解と予防に関する本を集めたDボックスを開設した。本を読む行為について語り合うLife with Readingの紹介も引き続き進めている。令和3年度のおはなし祭りは、感染症対策として、申込制で開催日を5日間に分散し行った。あざみ野ブックカフェは通常年4回

開催しているが、令和3年度は9月に緊急事態宣言がでたため1回休会となり、年3回の開催となった。2月には「はじめての Zoom 講座」を開催した。参加者本人が持っている端末を使つての講座で、利用者からは好評を得た。同じく2月にはテアトル図書館という企画（身近な施設である図書館で劇場体験をする横浜市の取組）で、落語家の桂宮治師匠が来館。落語の所作や仕組みについてのお話と一席演じていただいた。3月に作家の青山美智子氏のトークショーを開催した。当初は会場とオンラインは配信での参加を企画していたが、蔓延防止等重点措置が延長となったため、オンライン配信のみとなった。

#### 【45周年事業】

令和4年度は開館45周年にあたることから、周年事業を展開した。

●やまちゃんシール総選挙＝これまで作成したシールの中から月別の人気投票を行い、1位になった絵柄を復刻。令和4年度は、この復刻シールを配布している。

●とっておきおはなし会＝通常のおはなし会とは対象を替え、新小学1年生から3年生を対象に、4月10日（日）に開催。新たな参加者の開拓を図る。

●本の世界をぬってみよう＝45周年ポスターを塗り絵にし、利用者に彩色してもらい、展示。図書館に親しみを持ってもらうことを目的とする。

●佐藤春夫生誕130周年記念展示＝青葉区にゆかりの作家佐藤春夫の生誕130年にあたることから、佐藤作品を中心とした図書資料の展示や新宮市佐藤春夫記念館に協力をあおぎ写真等を紹介したほか、人気ゲーム「文豪アルケミスト」とタイアップしパネル展示を行った。ツイッターで広報を行うが、即日で4桁の「いいね！」がつき、広報のありようについて考えられた。

#### （2）大人の倶楽部活動報告（古川）

令和4年度に立ち上げる。市民が持つスキルを図書館に還元してもらおうとともに、活動によって参加者同士の交流を図り、個々の力を発揮し、充実感を得られる場を図書館が提供することを目的とする。現在、読書倶楽部と街歩きクラブが活動している。今後は、館内のディスプレイに携わるグループや玄関前の庭の管理をするグループなど、図書館を拠点にさまざまなクラブ活動が立ち上がればと考えている。

●読書倶楽部＝偶数月に開催。4、6、8月に活動を行った。4月はLife with Readingのワークショップ、6月はビブリオバトル、8月は6月のビブリオバトルでチャンプ本に選ばれた本の読書会を行った。

●街歩きクラブ＝6月、9月に回開催。6月は郷土史家の横溝潔氏に案内してもらい、「石川村の旧道を歩く 驚神社から満願寺まで」と題し、青葉区東部の新石川から元石川にかけて歩いた。9月は「絹の道と佐藤春夫の足跡をたどる」と題し、フリーライターの宮沢高広氏に案内いただき鉄道を散策した。

読書倶楽部の参加人数は少ないが、街歩きクラブの人気は高く毎回、定員に達している。

### (3) 大人の倶楽部活動を活発化するための意見交換

図) 現在は図書館が主体となって行っているが、参加者(利用者)が主体となって活動を行う倶楽部活動に発展させていくにはどうすればよいか。どういう倶楽部活動があれば楽しいかなどの案について意見を交わしたい。

- ・他のところで街歩きの講師(ガイド)を行っているが、同じような内容だと面白くなく感じる。倶楽部活動ということであれば、参加するだけでなく、何かをできるとよいのではないか。

図) 以前、映像のプロジェクトを行っていたときは、歴史コースを歩いてレポートしてもらい、ホームページで紹介したこともあった。

- ・青葉区の区政15周年企画で、子どもたちと区内を歩き、新聞にまとめた。子どもたちにカメラを渡し、レポートにまとめた。趣味で写真を撮っている人は多いので、そういった人たちの写真を活用できないものか。

- ・街歩きをする際、参加者に写真をとってもらい、記録をレポートにまとめて、展示コーナーで展示してはどうだろうか。活動の報告にもなる。

- ・参加者が自分たちでテーマを決めるところからはじめ、楽しめるものとしてはどうだろうか。

- ・街歩きをして食レポをしてもよいかもかもしれない。

- ・継続して活動が続かなくても、1回だけの活動となってもよいのではないだろうか。

- ・「図書館が支援しますので、こういう仲間づくりをしたい」という人を募集してはどうだろうか。応募の中から、支援可能なものの手助けを行い、仲間づくりを図り、場を提供する形としてはどうだろうか。

- ・もともとあるグループを応援する方法もあるし、新たなグループづくりに手をかしていく方法もあるのではないだろうか。

- ・集まって何かをやるということが難しい時代なので、きっかけをつくる場とバックアップをしますという形でスタートしてみてもどうだろうか。

- ・数独や大人の塗り絵を楽しむ会などもよいかもかもしれない。行き詰ったときは、仲間からアドバイスやコツをレクチャーしてもらうことができる。塗り絵は完成したものを展示することもできる。

- ・現在、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」がSNS上で、盛んにいろいろな見解が投稿されて

いる。リアルに話す場として、会場を提供してはどうだろうか。

- ・毎回テーマを決めて、今回は畠山重忠の会とか。
- ・青葉区はテレビドラマのロケ地も多いので、そういうことについて話す会を催してもよいかもかもしれない。

・戦国ものの「戦国 BASARA」や、文豪を題材にした「文豪とアルケミスト」など、ゲームが入口かもしれないが、はまっている人たちは文豪の作品を読みこみ、戦国ものであれば歴史に精通するまで知識を深めている。何かそういうふうに興味を引きこむ仕掛けを考えられないものか。

- ・音楽関係のジャンルの倶楽部活動があってもよいかもかもしれない。

### 3) その他、山内図書館への要望等

・赤ちゃん休憩室をもっと積極的にアピールしたほうがよいのではないだろうか。赤ちゃんが大きな声で泣き出し、お母さんが困っているのを目にしたことがある。玄関とか赤ちゃん休憩室の入り口の前で、赤ちゃんのための部屋があるということをもっと積極的に知らせるようにしたほうがよいのではないだろうか。

・コマをつくったり、おはじきをしたり、手を動かす昔遊びを楽しむことを企画してはどうだろうか。大人も子どもも楽しむことができる。

・旅行の参考になる本の展示はどうだろうか。〇〇を舞台にした本とか。読んだ本の場所を訪ねるのは楽しい。日本地図の上にその場所が舞台となった本を記すなど。リストを作ってもよいかもかもしれない。

・児童文学や YA を楽しんでいる人がリアルに集まり、語れる場をつくってもよいかもかもしれない。

・コロナ禍で人と人が触れ合う機会が切断されている。山内図書館で行っている大人のためのおはなし会がコロナ感染拡大防止のため休会し、再開したときは非常に喜ばれた。親子の触れ合いを楽しむ会「おはなしごっこ」でも、参加者から「この子を育てる中で、両親としか接していなかったの他の大人と接することができてよかった。この集まりでは子どもが泣いても安心していられる」という声を聞いた。図書館は本を媒介するだけでなく、人と人をつなぐ場でもあることを感じた。

配布資料：会議次第、やまうちとしょかん図書館だより（2022年秋号）